平成 28 年9月 23 日
会場：杉並区立桃井第三小学校

第 13 回　多様な動きをつくる運動（遊び）部会記録

記録：荒川区立尾久宮前小学校　今泉　悠乃

《演習　夏季合同研究会資料の共通理解》

〇多様な動きをつくる運動（遊び）で大切にすべきことは何ですか？

〈部員の意見〉

・もっとできるようになりたい　→　まず（簡単な運動から）やってみることが大切。
・トレーニングのように反復練習するのではなく、楽しみながら取り組む。
・児童の「運動欲求」を大事にしたい。
・夢中になって取り組むことができるようにする。→自然に身に付いていた。
　└>のめりこむ　　結果として、いろいろな動きができる。
・身に付いたという実感をもたせる。
・児童のやってみたいという気持ちを大切にする。
　└>実際、どうやって支援したらよいのか？
　　・課題を自己決定させる。「どんなことができるかな？」など教師が言葉掛けをする。
　　★「少しやったらできそう！」という遊びを提示する。

まずは、領域の説明をすることが大切。多様な動きをつくる運動（遊び）は、動きそのものがそんなに難しくなく、単純なもの。いわゆる「ちょっとやったらできそう！の寄せ集め。
「基本の３６の動き」をそのままやったらつまらない。教師が意図的に楽しい仕掛けをしていく。「できそう」と思える遊びを提示したり、広げたりしていく。

《授業振り返りシートについて》

〈部員の意見〉

・いつ使うの？　上に授業中の活用と書いてあるので、いつ使うのかが明確ではない。
・Ｃの「なわを回せない」児童に、支援をどうしたらよいかが分からない。
・つまずきをイメージできない。　つまずき〈できない〉
　└>できないという表現を使うべきか？
・単元を通して使うものなのか。Ｃにチェックしたものを、どうするか？
・支援例は、掲示物など言葉掛け以外にも必要ではないか。
　→掲示物まで書いてしまうと広げすぎて、余計見づらくなってしまう。
・こつとポイントの言葉は適切か。例：Ａのこつの言葉掛けは、ポイントではないか。
・Ｂの　□ほぼ全員が到達したか　という項目はチェックするのか。

そもそも、教師が「何の動きを取り上げるべきか分からない」という悩みに応えるためにこの振り返りシートを作った。しかし、実際は「全部チェックすればＯＫ」というシートに勘違いされてしまっている。Ｃのつまずきの種類にもいろいろある。できない児童と決めつけるシートにはなって欲しくない。
先生たちの「ヒント集」であり、あくまでも「方向性を見つけていくシート」である。
授業イメージをカード（シート）にしたいという部会の考えを形にするためにも、このシートで評価をするという意味合いを消した方がよいのではないか。
★ＡＢＣが載っていると評価の意味合いが強まる？
★「できる」「できない」という表現も取った方がよい？
★Ｃには、もっと具体的な支援を載せた方が親切ではないか。
★振り返りシートではなく、「ヒントカード」「ガイドシート」など、名前の検討。

《実態調査（案）について》
・許可が下り次第、各学校の４年生にアンケート実施。その学校の部員が集計し、田部先生に結果を送る。

《次回までの宿題確認》
・よい動き表　なわ（工藤）、ボール（諸星）、輪（三上）
・授業振り返りシート（樋川）※他の部員ももっとよくするために考えてくる。
・アンケート（田部）
・指導案（田邨）
※上記の宿題がない人は「運動遊び」と「遊び」の違いについて考えてくる。

《担当常任理事の先生から》
・Ｃ→Ｂ→Ａ　という評価は、体つくりの観点ではない。
　できるためになんとかさせるのではなく、できなくてもいろいろな動きを経験させることで、結果として動きが身に付いていたというのがよい。
・だれが聞かれても答えられるような資料を作ることが大事。